

帝京大学における講義ビデオの作成・視聴環境

2015年度後期より、八王子キャンパスにおいて講義ビデオを作成、視聴できる環境が利用できるようになりました。そこで、本記事では、板橋、八王子、宇都宮の3キャンパスにおける講義ビデオの作成・視聴環境をご紹介します。

いずれのキャンパスも、授業時間外の学修の支援のために、講義ビデオをネットワークを経由して学生に提供する環境をSonicfoundry社のMediasiteという製品を基盤にして整備しています。この環境では、教員が黒板やホワイトボードに板書したり、PowerPointのスライドなどをスクリーンに投影したりしながら行う講義をビデオとして収録することができます。これらの講義ビデオは、学生の予習、復習時の教材、反転授業のための事前学習教材などに活用できます。

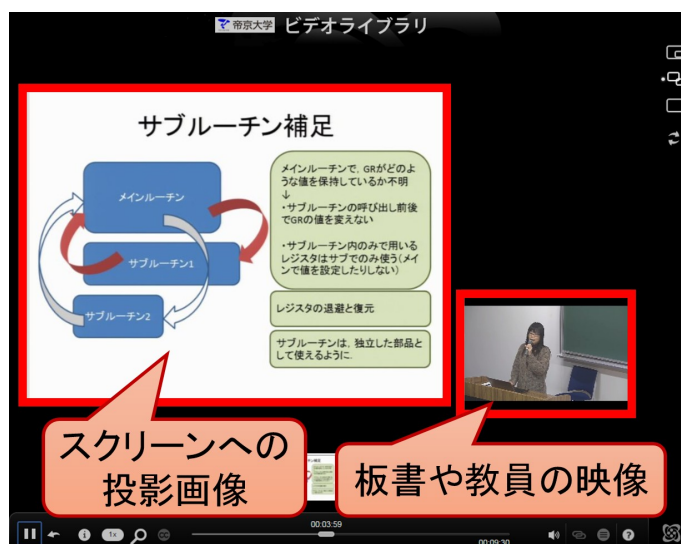
板橋キャンパスでは、42教室に収録装置を導入して、医学部、薬学部、医療技術学部の3学部の全講義を自動で収録しています。時間割に沿って自動で授業が収録されるため、教員は、通常通り授業を行うだけで、講義ビデオが作成されます。このとき、教室内のスクリーンが降りている場合は、スクリーンに投影している映像が、スクリーンが上がっている場合は、黒板の板書内容がそれぞれ撮影の対象となります。学生は、板橋キャンパスのコンピュータ教室からのみ講義ビデオを視聴することができます。2013年度より、3学部での運用が始まっており、定期試験の直前の月には数万件のアクセスがあります。

八王子キャンパスでは、10教室に収録装置が導入されており、教員が事前に収録を申請することにより、授業を自動収録しています。板橋キャンパスと同様、スクリーンの昇降により、ビデオ化の対象が自動で切り替わります。また、移動式の収録機が1台あり、キャンパス内の任意の教室で収録が可能です。学生は、LMSを経由して学内外から講義ビデオ

を視聴できます。また、教員は、学生ごとの視聴履歴をLMS上で確認することができます。これらのシステムの運用が、2015年度後期から始まり、今後の活用が期待されます。

宇都宮キャンパスでは、1教室に収録装置が導入されているほか、移動式の収録機が2台あります。教員は、事前に収録を申請することにより、担当部署による収録サービスを受けられます。また、2015年度後期からは教員個人のPC上で講義ビデオを作成できるツール（Desktop Recorder）が利用できるようになっています。学生の視聴およびその履歴の確認は、八王子キャンパスと同様LMSを介して行います。2014年度には、41科目での活用がありました。

以上の講義ビデオ作成・視聴環境に関して、板橋キャンパスについては同キャンパス教務課、八王子キャンパスについては同キャンパス教務グループ、宇都宮キャンパスについてはラーニングテクノロジー開発室までお問い合わせください。



講義ビデオの例

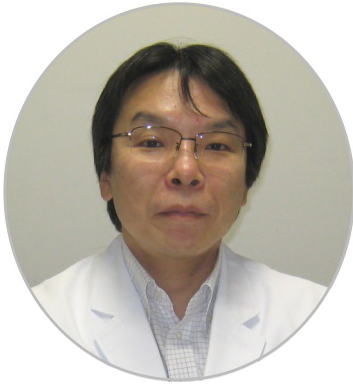
宇都宮キャンパスのビデオライブラリに新機能追加！

2015年度後期より、宇都宮キャンパスのビデオライブラリにおいて、Desktop Recorderというツールが利用できるようになりました。このツールを使うことで、先生方のPCで講義ビデオを作成し、配信サーバ

にアップロードすることができます。アップロードしたビデオへのリンクを、先生方がLMSに簡単に設置することも可能です。

詳細は、LT開発室までお問い合わせください。

医学部でのLMS活用



医学部では、学部全体でLMSを使用しているそうです。そこで今回は、医学部の山本貴嗣先生に医学部でのLMS活用について伺いました。

- 医学部でのLMSの使用 方法と経緯

(山本先生) LMSを使った予習、復習テストを今年度から全ての授業で実施しています。このきっかけになったのは、LMSを使って授業補助をできないかという、2年前に医学教育センター副センター長から受けた依頼です。LMSに予習資料を載せて、授業途中でテストをするから資料を読んでおくよう学生に指示しました。学生の反応は様々でしたが、一生懸命聞いている印象がありました。この時、テストの解説が欲しいという要望が学生から出たので、復習テストという形で提供したところ、最終試験前の勉強によかったという声がありました。これを他の先生方に話したら、全授業でやってみようという話になりました。

去年、豊田彰史先生(小児科講師)に中心になって頂き、一部の授業で20題ずつの正誤問題の予習、復習テストをしたところ、学生からの意見が予想以上によかったのです。先生方からも、学生が勉強してきているため授業中の集中力が違うという意見がありました。ただ、1日4限の全授業で実施しますので、1科目2時間の予習といったことは無理です。そこで、先生方には1科目15分の予習教材を提供して頂き、各授業で10問ずつの予習、復習テストという形で、今年度から始めました。

初めの頃は予習テストに10分をとっていたのですが、10問ですと1、2分で終わってしまうので、5分経ったら授業を始めるよう先生にお願いしています。中には、テストの成績や項目分析⁽¹⁾を確認して、授業に反映させていらっしゃる先生もいるようです。

- 復習テストの実施期間

復習テストは授業日の16時半から受けられるようにしています。学生からは復習テストを早くやりたいという声がありましたが、他の授業中にやらないように、4限授業終了時間以降にしました。また、これも学生の要望で、最終試験前まで何回でも受けられるようになっています。最終試験の勉強に利用しているようです。

- 一般教室での(スマートフォンなどでの)テスト 受験について

だいたい順調にできているようです。たまにフリーズする学生もいますが、ログインし直せば大丈夫なようです。先生より、学生のほうが慣れてきていますので。

- 実施にあたって大変だったこと

科目数が多いため、一番の難関はテストの入力でした。雛形⁽²⁾を使って入力して頂くという方法がなければ、成り立ちませんでした。

- 今後の展望

テストの解析を考えています。実際に医学部教務部長の薬理学の授業で、予習、復習テストをパラメータにして最終試験の成績に何が関係しているかを解析してみました。すると、予習テストの点数、復習テストの点数、復習テストの実施率という結果になりました。他の授業の解析はまだですが、成績に関係していない質問があればブラッシュアップするといった使い方ができないかなと考えています。

そのほか、予習テストの成績が振るわない学生を早めにピックアップして、学期が終わるのを待たずに個別指導できるのではないかと考えています。全授業のデータがあるので、誰がどのように解析するかなどはこれからですが、個人に適応した学習指導につなげていくことが、来年度以降の宿題です。

(1) LMSコースの成績管理の機能です。学生の解答データを自動的に分析し、今後の質問作成の参考となる情報を提供してくれます。

(2) 指定フォーマットのテキストファイルに質問の問いと答えを記入してアップロードすると、複数の質問をまとめて作成することができます。

LMS Tips

- ◆ 学生に資料が見えないと言われた!
- ◆ 授業回に必要な成績管理の項目を表示する

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。(<http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>)

編集後記

あつという間に12月の終わりが近づき、もういくつ寝るとお正月という時期です。今年の汚れは今年のうちにと、少しずつ大掃除を始め、やっと終わりがみえてきました。たまに何年物の汚れ?なんてものもありますが…新年を新たな気持ちで迎えられるよう、もうひと頑張りです。(渡部)

